



ふるさと館 ニュース



飯山市ふるさと館
〒389-2253
飯山市大字飯山1434-1
電話：0269-67-2030
FAX：0269-67-2030
e-mail: furusato@city.
iiyama.nagano.jp

ご案内

【開館時間】
9:00～18:00
※入館は17:30まで
【休館日】
月曜日、年末年始
※祝日の場合は火曜日
【入館料】
大人200円
子ども100円
※市内の小中学生と
同伴の保護者は無料

今月の文化財



魚形線刻画土器片
昭和47年、山の神遺跡（秋津荒船）にて出土。縄文時代晩期のもので、この土器片の外面には線刻によって魚形が描かれている。描かれた魚の種類はシュモクザメとの説もあるがはっきりしていない。

市指定文化財に新たな3点

平成19年6月6日、飯山市文化財保護審議会の答申を受け、「真宗寺方便法身尊形」、「坂原家方便法身尊形」および「五東宝篋印塔」の3点が新たに飯山市指定文化財に指定されました。

これにより、飯山市内の指定文化財は、国5件、県13件、市57件の合計75件となりました。新たに指定された3点をご紹介します。

■真宗寺方便法身尊形■



本図は、阿弥陀如来が蓮華座上に正面向きに立つて来迎印を結んでいる独尊立像です。

裏書の墨書名から、当時の真宗寺住職が天文11年（1542）1月21日に証如上人（11世法主）から下付されたことがわかります。

このことは、真宗寺が戦国の混乱を避けることや、一向宗を拡大する等の理由により、信濃国を離れていたことが伺えるなど、戦国期の一向宗の状況を知る上で貴重な資料となる文化財です。

■坂原家方便法身尊形■



本図も、真宗寺のものと同様に阿弥陀如来の独尊立像です。裏書に文明6年（1474）の銘記があり、飯山市の方便法身図としては最古のものです。また、裏書に蓮如上人（8世法主）の名前と花押も記されています。

在家中に存在してきたということから、飯山地域における一向宗の信仰が15世紀後半に存在し、道場などでこの方便法身図が使用され

ていたと考えられ、飯山地域の一向宗の布教活動を知る上でも貴重な資料となる文化財です。

■五東宝篋印塔■

本塔は、太田地区五東にあり、五東と飛沢の境の原位置から移動しています。基礎部に明徳4年（1393）8月と銘記があり、飯山市の石造文化財としては最古のものです。

型式は、基礎部に格座間を二つとする関東型で、逆修塔です。近年は風化が激しく一部が欠損しています。この塔の造塔者は、太田地域を支配した有力者と考えられていいますので、飯山の中世史を考えるうえで重要な文化財です。



「謙信道を歩こう」 実施しました

5月19日（日）講師の飯山市文化財保護審議会委員の長瀬哲先生の案内で、約450年前、川中島の合戦に向かう際に上杉謙信も通ったと言われる富倉峠道を歩きました。

講師より、道中にある、様々な石造文化財の歴史的背景を教えていただいたり、謙信が休んだと言われる大将陣で休憩をし、この地方に伝わる歴史について学習しました。



ふるさと館 春の企画展

「飯山の峠～歴史と文化が眠る道～」

戦国時代、富倉峠と関田峠は上杉謙信が川中島へ出陣する際に通ったといわれている軍用路でした。また、近世には信濃と越後の物資の輸出入に利用され、なくてはならない重要な道でした。これらの峠道の歴史を通じて、飯山の人々にとっての生活や文化の入り口であった峠道を概観します。

■期 間 4月24日（火）～6月24日（日）

■場 所 飯山市ふるさと館

シリーズ 飯山を語る No.5

飯山を「カタル」

信州大学工学部 教授

つちもと
土本 俊和



小学校六年生の冬に戸狩スキー場ではじめてスキーを体験したのが飯山をおとずれた最初でした。

その後、縁あって、長野に赴任しました。本格的な学術調査は小菅からでした。建造物と景観を担当しました。しばらくして、「カタル」という言葉を耳にするようになりました。

小菅では子守をすること「カタル」といい、育児のことをさすそうです。鷲尾恒久編集『小菅の里物語』（小菅むらづくり委員会、1994年7月）の編集後記（99・100頁）によると、「あの子は、ば

あちゃんにカタつてもらったから……」というそうです。そして、「ばあちゃんのカタル内容は地域の歴史であり、自然と空間であり、生きている世界の範囲であった。お年寄りが地域を語り、自然を語り、そして歴史と文化を語ることで、子供達は地域の一員となった。」

私にとって、小菅であつた「カタル」は、不思議な言葉でした。その後、この言葉が景観とふかかかわることをさとするようになりました。さらに、この言葉のもつたのならぬ力をじわじわと感じるようになりました。小菅の調査の後、飯山をフィールドとして、いろいろな場におもむくことができ、おおくの方々からおはなしをうかがうことができました。学生

達も、私も、諸々の貴重な事柄を会得してきました。学生達は飯山でカタつてもらっている、といえます。私も飯山でカタつてもらっている、といえます。では、私達は、だれにカタつてもらっているのでしょうか。それは、「ばあちゃん」でしょう。飯山には「ばあちゃん」が

いっぱいおられます。いろいろな意味でのこのような「ばあちゃん」は、文化をうけつぎつたえているばかりでなく、教育をになっているのでしょうか。

「ばあちゃん」が「カタル」ことは、無理のないように人がだんだんとやしないそでてられているの過程の一部をなしているのではないのでしょうか。この過程は、今日の日本がうしないつつある大切な教育である、とおもいます。

文化財保護審議会委員 関口信男氏昆虫標本寄贈

飯山市文化財保護審議会委員の関口信男先生（北町）が、30年以上にわたり収集された飯山地方の昆虫標本全961点を、飯山市教育委員会に寄贈していただきました。

標本は、チョウやセミ、トンボの他、ハチやカメムシなど多岐に渡っています。それらを種別毎に分別されているため、非常に見やすい標本箱となっており、ます。飯山市教育委員会では、標本をふるさと館に保存し、一般公開や調査・研究活動に活用していきます。



△標本の説明をする関口先生

▽グフチョウの標本



寄贈資料一覧

3月～5月

- ◇佐藤 やよ江 様
ふるい、綿の種取り機、機織機部品、糸類
 - ◇島津 紀之 様
雛人形
 - ◇村松 正志 様
爆音機（鳥おどし）
 - ◇倉持 誠 様
祇園祭の張り紙
 - ◇澤田 良夫 様
釜、自在鉤、鉄鍋、草履編み機、炭坑用具
 - ◇小川 幹夫 様
雛人形、琉球人形、越前竹人形、こいのぼり、とびぐち、枡、岡持、平膳、火打ち石 他全31点
- ※ふるさと館では、当館に所蔵していない資料の寄贈を受け付けております。寄贈いただいた資料は、大切に保存・活用させていただきます。

